

平成28年度九州大学医学部医学科・生命科学科卒業式 医学部長式辞

九州大学医学部の生命科学科ならびに医学科の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

この卒業式にあたり、九州大学医学部を代表して皆様のこれまでの努力と研鑽を心から讃えたいと思います。また、この日まで永きに渡って皆さんを支えてこられたご家族の方々に対しましても、心からお慶びを申し上げます。誠におめでとうございます。皆さんの中には、これから研修医として医療現場に赴く人、大学院に進学して研究者への本格的な歩み始める人、あるいは医学部で学んだことを基礎として新しい分野に挑戦する人、様々な人がいることと思います。皆様の今後の健闘を九州大学医学部教員・職員一同、心から祈っております。

卒業とは言うまでもなくひとつの出発点であります。これから皆さんは医師あるいは医学、生命科学の研究者というプロフェッショナルとしての第一歩を踏み出すことになるかと思っています。プロフェッショナルというのは、現状に満足せず一生学び続ける人のことをいいます。ようやく卒業なのに、まだ勉強ですか。と思っているかもしれませんが、ただ、実は今までの勉強よりもこれからの勉強の方がずっとずっと楽しいのです。私も元来怠け者なんですけど、学生時代よりも卒業してからのほうが、勉強が面白くなったというクチであります。ですから一生学び続けることもそう大変ではないと思います。君たちはこの所、そうですね、生命科学科の諸君は卒論で大変だったと思いますし、医学科の諸君は国家試験で大変だったと思います。それで、もう勉強はしばらくいいやと思っているところにまた勉強といわれて、ちょっと面食らっているかもしれませんが、実はそんなに大変なことではありません。なぜかっていうと、アマチュアである学生のとときのいわば傍観者としての勉強とプロフェッショナルになって、現場と向き合ったときの勉強は同じ勉強でもまったく違ったものであるからです。ですので、どうか楽しみにしておいてほしいと思います。

九州大学医学部は1903年に設立されてこの4月から115年目を迎えます。新しい新しいと思っていた生命科学科も設立からちょうど10年になりました。先日は生命科学科学生の自主的な運営で十周年の記念式典が行われたばかりとなります。これまでの間に世界の誇るべき研究実績や治療実績を残し、医学、医療の発展にさまざまな貢献をしてきて参りました。この建物のすぐ前には庭園がございます。この庭園の一角には同窓会の方々のご尽力により2年前に開館しました九州大学医学歴史館がございます。先輩たちが何を考え、何を目指したか。そして何を成し遂げたのか、あるいは何を成し遂げられなかったのか。それらのことがよくわかるように様々な資料が展示されております。長い歴史の中では、深く反省すべきことも起こりました。そのひとつが、ご存知の方も多いかと思いますが、第二次世界大戦末期に九大医学部で起きた生体解剖事件であります。捕虜となったアメリカ人兵士に対して、生体実験を行い、死に至らしめたという非人道的な事件であり、戦争末期の狂気の中で起こったこととはいえ、医師としてのモラルあるいは医学者としての研究倫理に反するものでした。この事件のような負の部分も含めて、過去を冷静に見つめな

おすことが、私達を正しい道へと導いてくれるものであると信じております。歴史に学んでいるからこそ九大医学部およびその卒業生は一段と高いモラルを持っている。そのようにありたいと考えております。

皆さんの未来は必ずしも喜びばかりではないかもしれません。予想もしなかった困難も待ち受けているかもしれません。しかし医学を学んだ者として、医学、医療に携わる者として、生命に対して謙虚に向かい合う、その姿勢を決して忘れないで欲しいと思います。生命に対して謙虚であることを忘れなければ、大きく道を踏み外すことはないと思っています。その上で皆様には心優しく、志（こころざし）は高く、そのような医学研究者、医療人になって頂きたいと切に願っております。心優しくあるためには、他人を思いやる想像力が必要だと思えます。その想像力の源のひとつは、いわばしなやかな心ではないかという風に思えます。これから先の一節は去年と同じことを繰り返すので、去年聞いた教授の先生方は、またかと思われるかと思いますが、卒業生諸君は初めて聞くと思うので、少し話します。清く正しく美しくという言葉聞いたことがあるかと思いますが、これは実は宝塚音楽学校の校則でもあるらしいですが、これはこれでもう十分な結構な話であります。これをしなやかな心を持って多少変形して「清く楽しく美しく」という風にしたと思います。これは実は私のオリジナルではなくて、かのキョンキョンがいった言葉であります。キョンキョンご存知ですか。私が青春時代というか20代の頃には、アイドル中のアイドルで、今は女優として活躍しております。確か先週までであった某局のドラマにも出演していたという話であります。もし知らない人があれば、後でお父様、お母様に聞いてみてください。

さて、しなやかな心で何をしなければならぬかということですが、忘れていいこと、忘れてはいけないこと、そして忘れなくてはならないこと、これらをきちんと仕分ける。こういう判断力をつけることが大事だと思います。これら三つのことをきちんと仕分けることを、実は昔から教養とっております。皆さんには真の教養を身につけて欲しい、真の教養を身につけた心優しいプロフェッショナルになって欲しいと願っております。蛇足ですけれど、私が皆さんに講義しました生化学は、忘れていいことには入っておりませんので、その辺はしっかり覚えておいて欲しいと思います。さて教養を身につけるといっても王道があるわけではありません。多くの様々な分野や色んな立場の人とこれから接することが非常に大切だと思います。その上で是非時間を作って本を読んで欲しいな、と私は思っております。それも本は本でも縦書きの本を読んで欲しい。横書きの専門書は、これから嫌でも読まなくてはならなくなります。一方で、出来れば縦書きの本もたくさん読んで欲しい。なぜかというとなんか人間のことはですね医学だけでは到底解かるものではないからです。最後は必ず死ぬとわかっているのになぜ人は生きていけるのか。その根源的なものを考える学問として人文系の学問があります。時にそのような人文系の縦書きの本を読んで考える時間を作って欲しいと思っております。

さらに、しなやかな心を保つにはある意味で遅く生きていくことも必要です。今年の朝の連ドラの主題歌でもありました「365日の紙飛行機」という歌がありますが、私もあの歌大好きなのですが、その中に「思いどおりにならない日は明日がんばろう」という箇所が

あります。こういう「切り替え」ということも遅しく生きていく上では非常に大事だと思います。また、しっかり食べることも大事だと思います。食べ過ぎてはいけませんが、まあしっかり食べて欲しいと思います。今度は夜のドラマですが、今週までであった「カルテット」というドラマを見ていた人もいるかもしれません。その中で「大丈夫。泣きながらご飯を食べたことがある人は生きていけます。」という台詞がありました。どうにもならなくなっちゃったと思っていても、とにかく何かを口にに入れてさえいれば、きっと体の方が心を助けてくれる時もやってきてくれると思います。皆さんの中には残念ながら今回の医師国家試験に不合格だった人もいるかもしれません。ひとつ忘れないで欲しいのは、皆さんはですね、今、自分自身は、もうだいぶ大学も卒業して年をとったなど思っているかも知れませんが、実はすごく若いんです。自分で考えているよりずっとずっと若いんです。これからの人生の方がずっと長いんです。ですので、少々遅れても何も心配することはありません。顔をあげて、背筋をしっかり伸ばして、しっかり食べて、今回駄目でもあしたがんばろう。そういう感じで遅しくがんばって欲しいと思います。

要求ばかり多くて恐縮ですが、さらに皆さんには心優しくあるとともに、目標、志を高く掲げて欲しいと思っております。世界中の先立達によって培われて来た医学・医療のその膨大な遺産をただ手軽に消費するだけ、あるいは既存のテクニックを身に付けマニュアルをただこなすだけ、といったようなレベルで満足して欲しくはありません。目標は高く掲げて、常識を疑い、根本的な問題にチャレンジして欲しいと思います。世界中の先輩達によって培われてきた医学・生命科学の膨大な遺産に対して、皆さんの手で小さくてもいいですから確かなものを追加してもらいたいと願っております。他の分野もそうかもしれませんが、特に医学・生命科学の発展進歩においては、実は天才と言われる人たちよりも、普通の人々が長年に渡って繋げてきた「小さな積み重ね」、言い方を代えますと、先輩から後輩への地道なリレーによって成し遂げられたものなんです。どうか志を高く掲げて、この地道ではあるけれども実り多いリレーに皆さんも積極的に参加して欲しいと願っております。

繰り返しになりますが、皆さんには、心は優しく、志は高く持ち、それでいてしなやかで遅しい医学研究者、医療人、あるいは社会人になって頂きたいと切に希望しております。

皆さんひとりひとりが、これからの長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、私からの祝辞とさせて頂きたいと思います。

皆さん、卒業本当におめでとう。

九州大学医学部長 住本 英樹